

伊藤大使による三鷹市訪問

令和7年（2025年）3月7日

3月3日、伊藤大使は一時帰国の機会を利用して三鷹市を訪問し、河村孝・三鷹市長を表敬しました。



伊藤大使（左）と河村市長
（写真：三鷹市ご提供）

「国立天文台があるまち」三鷹市とチリ共和国は、同市大沢にある国立天文台がチリのアタカマ高地に設置されている世界最大級の天体望遠鏡「アルマ望遠鏡」を運用しているご縁から、その友好関係が始まりました。

東京2020パラリンピック競技大会では、三鷹市はホストタウンとしてチリ・パラリンピック選手団の事前キャンプを受け入れ、パラリンピック競技大会以降も、三鷹市の小・中学生とチリのパラリンピック選手との交流が継続するなど、友好関係が続いています。



河村市長表敬において伊藤大使は、「三鷹市とチリ共和国の交流が、様々な分野で続いていることをとても嬉しく思います。パリ・パラリンピックの時には、三鷹の子どもたちから絵手紙がたくさん届き、チリのパラリンピアンはとても喜んでいました。若い人たちを中心とした日本とチリの友情の輪が広がり、今後も継続して交流できればと思います。」と交流促進への期待を述べました。

河村市長は、「国立天文台のアルマ望遠鏡のご縁から始まったチリとの関係は、スポーツや文化を通じた交流とともに、国際平和にも繋がっていると思っています。今後も、国立天文台とも協力して、チリ共和国との交流を続けて行きたいと思っています。」と応じ、三鷹市とチリの文化・国際交流について意見交換が行われました。